



JP-B-7-16551

[TITLE OF THE INVENTION] RADIATOR MOUNTING STRUCTURE

[WHAT IS CLAIMED IS:]

[Claim 1] Radiator mounting structure in which a radiator provided with a radiator louver in the front is attached to a radiator shroud, wherein:

a fitting protruded piece for fitting to a U-shaped fitting part provided on the inner face of the radiator shroud is provided to one side of the radiator;

a louver supporting rod for supporting the radiator louver is inserted between the end of the fitting protruded piece fitted through the U-shaped fitting part and a support provided to the other side of the radiator supported by the support; and

a compressing spring is set around the louver supporting rod between the fitting protruded piece and the radiator louver.

[Claim 2] Radiator mounting structure in which a radiator provided with a radiator louver in the front is attached to a radiator shroud, wherein:

a fitting protruded piece for fitting to a U-shaped fitting part provided on an inner face of the radiator shroud is provided on one side of the radiator;

a louver supporting rod for supporting the radiator louver is inserted between one side of the radiator and a support provided to the other side of the radiator supported by the support;

a compressing spring is set around the louver supporting rod between support structure on one side and the radiator louver; and

a stopper for enclosing the fitting protruded piece from both sides is provided to the radiator louver on the side of the fitting protruded piece.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案公報 (Y 2)

(11) 実用新案出願公告番号

実公平7-16551

(24) (44) 公告日 平成7年(1995)4月19日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 2 J 39/00

H

請求項の数2 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願平1-26447  
(22) 出願日 平成1年(1989)3月8日  
(65) 公開番号 実開平2-117281  
(43) 公開日 平成2年(1990)9月19日

(71) 出願人 999999999  
スズキ株式会社  
静岡県浜松市高塚町300番地  
(72) 考案者 國光 元秀  
静岡県引佐郡細江町中川7172-1218  
(74) 代理人 弁理士 佐藤 一雄 (外3名)

審査官 久保 克彦

(54) 【考案の名称】 ラジエタ取付構造

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 前面にラジエタルーバを有するラジエタを、ラジエタシュラウド内に取付けてなるラジエタ取付構造において、前記ラジエタの一侧に前記ラジエタシュラウド内面に設けたコ字状係止部に対し係止する係止突片を設け、前記コ字状係止部をくぐって係止した前記係止突片の先端と、前記ラジエタが支持体に支持されるラジエタの他側に設けられた軸支部との間に前記ラジエタルーバを支持するルーバ支持棒を挿通し、前記係止突片と前記ラジエタルーバとの間であって前記ルーバ支持棒の周囲に圧縮スプリングを介在させたことを特徴とするラジエタ取付構造。

【請求項2】 前面にラジエタルーバを有するラジエタを、ラジエタシュラウド内に取付けてなるラジエタ取付構造において、前記ラジエタの一侧に前記ラジエタシュ

2

ラド内面に設けたコ字状係止部に対し係止する係止突片を設け、前記ラジエタの一侧と前記ラジエタが支持体に支持されるラジエタの他側に設けられた軸支部の間に前記ラジエタルーバを支持するルーバ支持棒を挿通し、一方の軸支部と前記ラジエタルーバとの間であって前記ルーバ支持棒の周囲に圧縮スプリングを介在させ、前記係止突片側の前記ラジエタルーバに、前記係止突片を両側から囲い込むストッパを設けたことを特徴とするラジエタ取付構造。

10 【考案の詳細な説明】

【産業上の利用分野】

本考案はオートバイ、特にオフロードバイクに取付けられるラジエタ取付構造に関する。

【従来の技術】

第6図～第8図に従来のオフロードバイクのラジエタカ

バー装置を示す。

第6図に示すように燃料タンク1の下側であってフロントフォーク2の後方にラジエタ3が取付けられている。このラジエタ3を保護するためにラジエタシュラウド4が左右両側に取付けられている。この取付けは、燃料タンク1に対しておこなわれる。

第7図に燃料タンク1とラジエタシュラウド4の関係を示すための分解斜視図を示す。左右のラジエタシュラウド4の後側は燃料タンク1に対しボルトによって取付けられ、前側は空気を取り入れるために互いに開いている。この開いた部分にラジエタ3が取付けられる。

第8図は、ラジエタシュラウド4の内側からラジエタ3を見た斜視図である。ラジエタ3は、車体中央側の図示しない支持体に対して支持されている。この支持は、ねじ穴5を通して螺合される図示しないねじ等によっておこなわれる。またラジエタシュラウド4の内面にはコ字状の係止部6が設けられ、この係止部6に対しラジエタ3のL字状の係止突片7が係止している。複数のラジエタルーパー8を支持するルーパ支持棒9は、ラジエタ3の両側に形成された軸支部10に挿通されている。尚、ラジエタ3とラジエタシュラウド4の間には、ラジエタシュラウド4側に風送り板11が形成され、前面から流れてくる空気をラジエタ3の方へ送るようになっている。

〔考案が解決しようとする課題〕

上述のように、従来技術においては、ラジエタシュラウド4の後側は燃料タンク1にボルト穴12によりボルト止めされているが、側方へ働く力に対しラジエタシュラウド4を支えるためには、何らかのパーツを必要とする（実開昭59-22935、実開昭59-190622、実開昭57-57122、実開昭59-70826）。従ってパーツの数が多くなり、ひいては車体の重量を重くしてしまっていた。

また、コ字状係止部6に対しL字状係止突片7が単に係止しているだけなので、ラジエタルーパー8さらにはラジエタ3が後方に倒れやすいものであった。

本考案は以上の問題点を鑑みてなされたもので、特別のパーツを用いず従来のパーツを利用してラジエタシュラウドを側方側に支え、且つラジエタルーパー及びラジエタが後方に倒れにくいラジエタ取付構造を提供することを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の第1の特徴は、前面にラジエタルーパーを有するラジエタを、ラジエタシュラウド内に取付けてなるラジエタ取付構造において、前記ラジエタの一侧に前記ラジエタシュラウド内面に設けたコ字状係止部に対し係止する係止突片を設け、前記コ字状係止部をくぐって係止した前記係止突片の先端と、前記ラジエタが支持体に支持されるラジエタの他側に設けられた軸支部との間に前記ラジエタルーパーを支持するルーパ支持棒を挿通し、前記

係止突片と前記ラジエタルーパーとの間であって前記ルーパ支持棒の周囲に圧縮スプリングを介在させたことを特徴とするラジエタ取付構造である。

また第2の特徴は、前面にラジエタルーパーを有するラジエタを、ラジエタシュラウド内に取付けてなるラジエタ取付構造において、前記ラジエタの一侧に前記ラジエタシュラウド内面に設けたコ字状係止部に対し係止する係止突片を設け、前記ラジエタの一侧と前記ラジエタが支持体に支持されるラジエタの他側に設けられた軸支部の間に前記ラジエタルーパーを支持するルーパ支持棒を挿通し、一方の軸支部と前記ラジエタルーパーとの間であって前記ルーパ支持棒の周囲に圧縮スプリングを介在させ、前記係止突片側の前記ラジエタルーパーに、前記係止突片を両側から囲い込むストッパを設けたことを特徴とするラジエタ取付構造である。

〔作用〕

第1の特徴によれば、コ字状係止部を、係止突片と支持棒によって形成した略ループにより囲い込み、ラジエタシュラウドからラジエタが外れにくくなる。また圧縮スプリングの働きによりルーパ支持棒が軸方向に抜けにくくなる。

第2の特徴によれば、コ字状係止部を、係止突片とストッパにより略ループを形成し囲い込むことにより、ラジエタシュラウドからラジエタが外れにくくなる。また圧縮スプリングの働きでルーパ支持棒が軸方向に抜けにくくなる。

〔実施例〕

第1図、第2図、及び第3図に本考案の第1の実施例を示す。なお、従来技術と同一部分には同一符号を付して詳細な説明は省略する。

第1図に示すようにラジエタシュラウド4の内面にはコ字状係止部6が設けられている。このコ字状係止部6に対し、ラジエタ3の一侧に設けた係止突片21が係止するようになっている。前記コ字状係止部6をくぐって係止した係止突片21の先端には穴が形成されており、ルーパ支持棒9の一端が挿通されるようになっている。また図示しない支持体に対し支持されるラジエタ3の他側には軸支部10が設けられ、この軸支部10の穴にルーパ支持棒9の他端が挿通されるようになっている。このような係止突片21と軸支部10は、それぞれ2個設けられている。ルーパ支持棒9には、3枚のラジエタルーパー8が支持されている。

2本存在するうちの1本のルーパ支持棒9の周囲には圧縮スプリング22が設けられている。この圧縮スプリング22は、前記3枚のラジエタルーパー8及びルーパ支持棒9は、第1図右方向に付勢される。

また、係止突片21とルーパ支持棒9はいわば略ループを形成し、前記コ字状係止部6を囲い込んでいる。この状態により、従来のように単にコ字状係止部にL字状係止

突片に係止している状態に比べ、係止が強固におこなわれ、係止が外れる可能性を小さくすることができる。またラジエタシュラウド4は、ラジエタシュラウド4に設けられたコ字状係止部6、ルーパ支持棒9、ラジエタ3を介して図示しない支持体に結合していることになり、車体左右方向すなわち側方に支持されることになる。従って特別のパーツを必要とせず従来のラジエタカバー装置において用いられていたパーツのみを用いてラジエタシュラウド4を側方に支持することができる。

第2図は第1図の要部の水平断面図を下から見た図である。車体中央に存在するフレームパイプ23に対しこの実施例では車体左側にラジエタ3が設けられている。ラジエタルーパ8を取付ける場合には、ラジエタルーパ支持棒9に係止突片21の穴に挿入し圧縮スプリング22の付勢力に抗して軸方向（第2図下方）に移動させ、その後、他端を軸支部10に挿通させる。そして手を離せば、圧縮スプリング22の付勢力によりルーパ支持棒9は所定の位置に保持され、このようにしてルーパ支持棒9が軸方向に抜けることが防止される。

第4図及び第5図に本考案の第2の実施例を示す。

ラジエタシュラウド4の内面にはコ字状係止部6が設けられている。このコ字状係止部6に対し、ラジエタ3の一侧に設けられた係止突片21に係止される。ラジエタ3の他端は図示しない支持体に支持される。この支持はねじ穴5を通して螺合されるねじによっておこなわれる。3枚のラジエタルーパ8はルーパ支持棒9に固定して支持されている。このルーパ支持棒9は、ラジエタ3の両側に形成された軸支部10の穴に挿通されるようになっている。ルーパ支持棒9は2本設けられ、これに対応して軸支部10も二対設けられている。ルーパ支持棒9のうち1本のルーパ支持棒9の周囲には、一方の軸支部10と、この軸支部10にもっとも近いラジエタルーパ8aとの間に圧縮スプリング22が設けられている。この圧縮スプリング22により、ルーパ支持棒9及びラジエタルーパ8が軸

方向に付勢され、これによって、ルーパ支持棒9が軸支部10の穴から抜けにくいようになっている。

3枚のラジエタルーパ8のうち前記係止突片21にもっとも近いラジエタルーパ8aには、2つの爪状のストッパ24が形成されている。このストッパ24は前記係止突片21と対になって、いわば略ループを形成し、コ字状係止部6を囲い込んでいる。この囲い込みによりラジエタシュラウド4からラジエタ3が外れにくくなっている。またラジエタシュラウド4はコ字状係止部6、係止突片21、ラジエタルーパ8、ルーパ支持棒9、及びラジエタ3を介して図示しない支持体に連結されることになるので、このことにより、ラジエタシュラウド4は特別のパーツを必要とせず側方に支持されることになる。

〔考案の効果〕

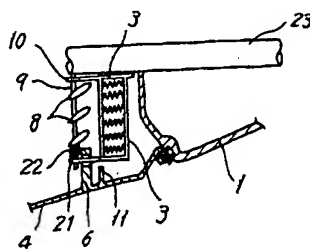
以上説明したように、本考案によれば、コ字状係止部を囲い込む係止構造により特別のパーツを必要とせずラジエタシュラウドとラジエタの係止を強固におこなうことができる。またコ字状係止部を囲い込む構造の係止構造とすることにより、ラジエタが後方に倒れにくくすることができる。

〔図面の簡単な説明〕

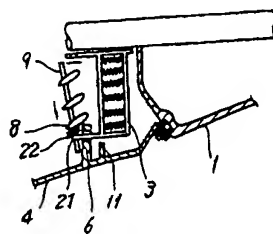
第1図は第1考案の一実施例を示す概略斜視図である。第2図は第1図の要部を示す水平断面を下から見た図である。第3図は第2図の作用を示す図である。第4図は第2考案の一実施例を示す斜視図である。第5図は第4図の要部を示す水平断面を下から見た図である。第6図は考案が実施されるオフロードバイクの全体側面図である。第7図は第6図のラジエタシュラウドとフュエルタンクの関係を示す分解斜視図である。第8図は従来のラジエタカバー装置を示す斜視図である。

1……フュエルタンク、3……ラジエタ、4……ラジエタシュラウド、6……コ字状係止部、7……L字状係止突片、10……軸支部、9……ルーパ支持棒、21……係止突片、22……圧縮スプリング、24……ストッパ。

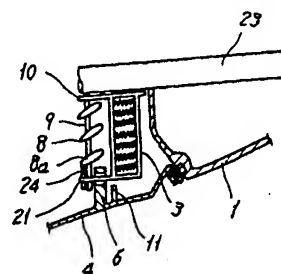
【第2図】



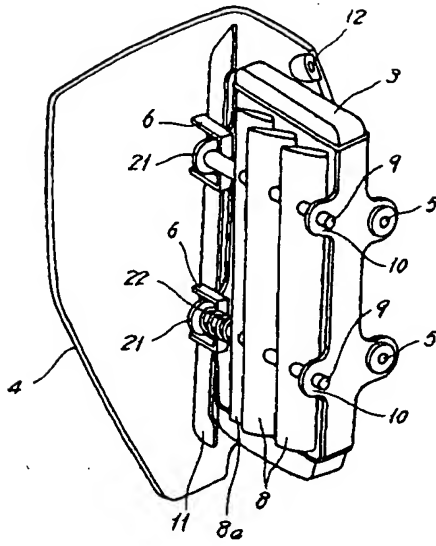
【第3図】



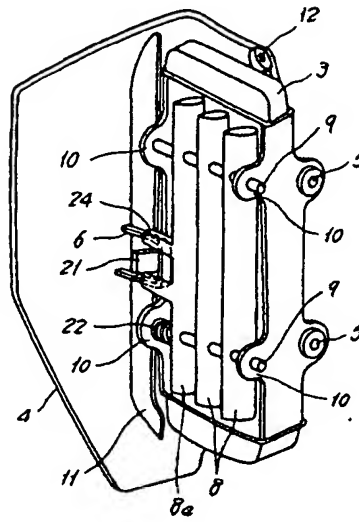
【第5図】



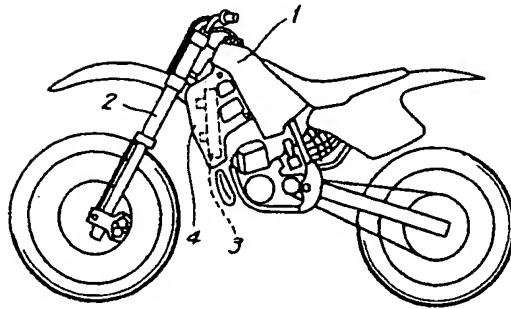
【第1図】



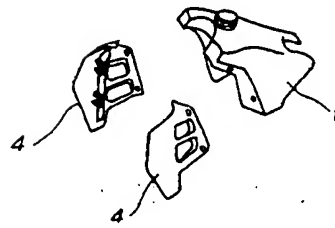
【第4図】



【第6図】



【第7図】



【第8図】

